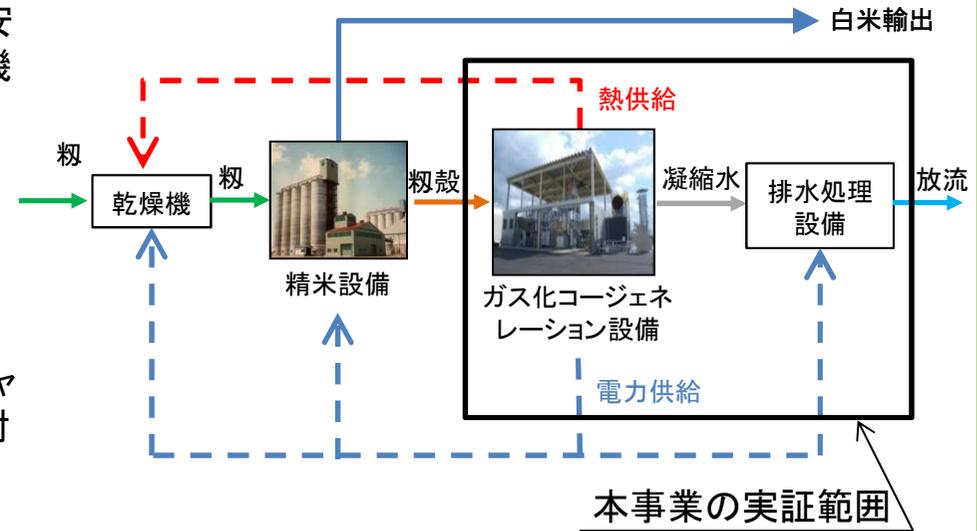


リノベーション・実証の概要

ミャンマー国では恒常的な電力不足と不安定さから、安定電力確保のため、多くの精米所ではディーゼル発電機が導入されている。

本事業では、精米所の安定電源として籾殻を原料にしたガス化コージェネレーションシステムを適用し、CO2の削減を目指す。

本システムは、日本の既存システムに対して籾殻の無固形化処理と自動化等のシステム簡易化のリノベーションにより省エネルギー化と低コスト化を実現する。又ミャンマー国において環境問題となりつつある排水処理の対策を行った右図システムを現地での設置・実証により同国での普及を目指す。



対象とする国・地域の概要

農業部門が経済の基盤であり、農業振興と米増産が最優先。

経済成長とともに電力需要が増加しているが、国全体の電化率は31%程度に留まり、恒常的に電力が不足している。



地図データ©2015 Google

対象とする国・地域における事業化・普及の見込み

事業化見込み

- STEP1: 現地の精米設備運営会社との協業・提携
- STEP2: 現地のエンジニアリング、製作会社との提携
- STEP3: 他の国への展開実施

普及の見込み

- ・2020年時点で累積15箇所に見込み
(年間480万トンの米輸出計画量に対して10%相当)
- ・2030年度までに累積30箇所に見込み